

## マタイ受難曲の続き

カール・リヒター J・S バッハ マタイ受難曲 1971年 ミュンヘン 2970円

第2部 「大祭司の尋問」「ペテロの否認」「ユダの自殺」「ピラトの尋問」「判決と鞭打ち、嘲弄」「十字架への道行き」「磔刑」「イエスの死」「埋葬」 56分

### 第36曲～第44曲「大祭司の尋問」

第2部は、主を奪い去られて茫然自失したシオンの娘が、ゲッセマネの園に主を探し求めている状況から始まる。ここで口短調のアリア<ああ、いまやわたしのイエスは連れさられた>を歌うアルトには、旧約聖書の雅歌における「恋人を探す美しい娘」のイメージが重ねられており、彼女に呼びかける二長調の合唱楽節にも、不安を和らげる、どこか牧歌的な憩いがしのばされている。

続いて大祭司の前での審問が始まる。「いつもの裁判はわたしの身にも」と歌う変口長調のコラール(第38曲)。相次ぐ偽証にもイエスは沈黙を守っている。その沈黙の意義を解き明かすテノールのレチタティーヴォ(「数の象徴」の項参照)と、イ短調のアリア<忍べよ、忍べよ>(第41曲)。後者においては、口を固く結ぶ沈黙と「偽りの舌」が「わたしを刺す」さまが、具象的な音型で描写される。

こうして音楽は、スメントのいう「中核部」に入っていく。群衆は興奮の叫びをあげ(第42曲)、イエスを殴打して嘲りの言葉を発する。たまりかねたようにコラールが介入し、へ長調の簡潔な和声に主への優しい同情をしのばせつつ、この場面を閉じる。

0:00~4:44 4分

アリア(アルト I)と合唱 II

アルト ああ、今や私のイエスは連れ去られてしまわれた。

合唱 II あなたの愛する方はどこへ行かれてしまったのか？ 女たちのうちで最も美しいあなたの子

は？

アルト 私は見つけることができるのでしょうか？ 私が見届けられるのでしょうか？

合唱Ⅱ あなたの愛する方はどこへ行かれてしまったのか？

アルト ああ！猛虎の爪にかかってしまった私の子羊よ！ ああ！私のイエスはどこへ連れ去られてしまわれたのか？

合唱Ⅱ **それならば 私たちも、あなたと一緒に彼を探しましょう。**

アルト ああ！ 私はどう答えたらいいのでしょうか？ 主を想う魂が、不安に駆られてこう訊かれたら…「私のイエスはどこへ連れ去られてしまわれたのか？」と。

4 : 44 ~ 5 : 48 1分

レシタティーボ

福音史家 イエスを捕らえた者たちは、律法学者らと長老たちが集まっている大祭司カイヤファのところへ彼を引いて行った。**ペテロは遠くからことの成り行きを見届けるために、イエスに遠くからついて行き、大祭司の館まで来て中庭に入って僕たちの中に紛れ込んだ。**大祭司たち、長老たち、全議会は、イエスを死刑にするために、偽の証拠をしきりに探したが、何も見つからなかった。

5 : 48 ~ 6 : 36 1分

コラール

世の人々は、私を欺き仕掛けた。偽りと企みを持って、多くの網と秘密の罟をもって。主よ、このような危険の中で、私を顧み、偽る者を企みより私を守って下さい。

6 : 36 ~ 7 : 50 1分

レシタティーボ

福音史家 多くの偽証者が出てきたのだが、何も証拠を見つけられなかった。最後に2人の偽証者が出てきて言った。

証人2人 この男は「私は神殿を打ち壊し、3日で建て直せる」と言いました。

福音史家 すると、大祭司が立ち上がってイエスに言った。

大祭司 彼らがお前に不利な証言をしているが、それに何も答えないのか？

福音史家 しかし、イエスはじっと黙っていた。

7 : 50 ~ 9 : 03 1分半

レシタティーボ(テノールⅡ)

私のイエスは嘘偽りの証言にじっと黙っておられた。これによって私たちに次のことを示しておられるのだ。憐れみに満ちたその御心が、私たちのために苦悩を受けようと望まれたことを。**ならば、私たちもまた同じ悩みに会う時、イエスに学んで迫害にあっても沈黙に徹しよう。**

9 : 03~12:35 2分半

アリア(テノール II)

忍べよ、忍べ！ 偽りの舌が私を刺す時。私の身に覚えがない、辱めと嘲りを被ったとしても。ああ、私の頼りにする御神はこの身に覚えがなく、辱めと嘲りを被ろうとも、尊い御神は、私の心の無実を証で、敵に報復して下さるだろう。

この身に覚えがなく、辱めと嘲りを被ろうとも、尊い御神は、私の心の無実を証で、敵に報復して下さるだろう。

忍べよ、忍べ！ 偽りの舌が私を刺す時。私の身に覚えがない、辱めと嘲りを被ったとしても。

12:35~14:22 2分

レシタティーボ

福音史家 そこで大祭司は問い正して言った。

大祭司 生ける神の御名に誓って私に答えよ。お前は神の子キリストなのかどうか？ 我らに答えよ。

福音史家 イエスは言った。

イエス あなたの言うとおりで。しかし、私はあなたがたに言うておく。やがて時がくれば、あなたがたは人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう。

福音史家 その時、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。

大祭司 こいつは神を冒瀆した。もうこれ以上の証言の必要があろうか？ 見よ、諸君は今、こいつの神への冒瀆の言葉を聞いた。どう思うか？ あなた方の判断は？

福音史家 彼らは答えて言った。

**二重合唱 この男は死罪に値する！**

14:22~14:57 1分

レシタティーボ

福音史家 そこで、彼らはイエスの顔に唾をかけ、こぶしで打った。また何人かは顔をひっぱたいて言った。

二重合唱 言い当てて見ろ。キリストよ、おまえをぶったのは 誰だ？

14:57~15:55 1分

コラール

誰があなたをこんなに打ったのか？ 私の救い主よ、どうしてあなたにこんな責苦を負わせるのか？  
本当にあなたは、私たちや我が子らのような罪人では全くありません。悪事など知らない、清廉潔白のお方なのです。

第 45 曲～第 47 曲「ペテロの否み」

イエスとの関係を問い詰められたペテロは、イエスのことを3度「知らない」と言ってしまう。するとたちまち鶏が鳴き、ペテロは主の予言を思い出して涙にくれる。

この場面における福音史家の語りはバッハの朗唱技法の神髄を示すもので、黎明を貫いて響く鶏の声とペテロの驚愕、湧きあがる後悔を簡潔な語りの余情ににじませて、鮮烈な印象を与える。

ここを受けるアルトの aria <憐れみたまえ、わたしの神よ>は、口短調によるシチリアーノ風の音楽。涙のしたたりを形象化するピチカート・バスに支えられた独奏ヴァイオリンの旋律は、いかにもバッハ風の美しさにあふれている。この aria が進むうちに、人間のへの痛みは深い慰めに変わり、**贖いと恵み**を認識するコラール(第 48 曲)が、イ長調の思いがけぬ明るさをもって響いてくる。

15:55~18:35 3分

レシタティーボ

福音史家 さて、ペテロは邸の外の中庭に座っていた。するとひとりの女中が来て言った。

女中1 おや、あなたもガリラヤ人のイエスと一緒にいたね。

福音史家 ペテロは皆の前で打ち消して言った。

ペテロ 何を言っているか、わからない。

福音史家 門まで出て行ったとき、他の女中が彼を見て、そこにいた人々に言った。

女中2 この人もナザレ人のイエスと一緒にいた。

福音史家 そこで、彼はまた打ち消して、その上誓って言った。

ペテロ そんな人、知らない。

福音史家 しばらくして、そこに立っていた人がペテロに近づいて来て言った。

合唱 II 確かにおまえもあいつらの一人だ。訛りでわかる。

福音史家 ここでペテロは、嘘だったら呪われてもいい、と誓った。

ペテロ そんな人のことなど知るものか！

福音史家 すると そのときたちまち鶏が鳴いた。ペテロは「鶏が鳴く前に君は三度私を知らないと言うだろう。」というイエスの言葉を思い出し、そして外へ出て激しく泣いた。

18:35~26:11 8分

aria (ソプラノ I)

憐れみたまえ、憐れみたまえ 私の神よ。したたり落ちる私の涙のゆえに！ 憐れみたまえ 私の神よ。したたり落ちる私の涙のゆえに！ ここをご覧ください。心も目も あなたの御前で激しく泣いています。憐れみたまえ！ 憐れみたまえ！ 憐れみたまえ 私の神よ。したたり落ちる私の涙のゆえに！ 憐れみたまえ 私の神よ。したたり落ちる私の涙のゆえに！

26:11~27:25 1分

—コラール

私は、たとえあなたから離れて出ても、再び、あなたのもとに立ち返ります。本当に御子は私たちを、悩みと死の責苦によってあがなってくださったのですから。私は自分の咎を否みません。けれども、あなたの恵みと愛は、私の内にいつも宿る罪よりもはるかに大きいのです。

## 第 49 曲～第 51 曲「ユダの自殺」

イエスがローマ総督ピラトに引き渡されたのを見たユダは、後悔して銀貨を返そうとする。しかし祭司長たちは取り合わない。ユダは銀貨を神殿に投げこむと、首を吊ってしまう。続くト長調のバス・アリア<わたしに返せ、わたしのイエスを>はユダを「帰って来放蕩息子」と捉え、思いのほか明るい音によって、裏切りの罪から彼を救い出す。

27:25~29:18 2分

福音史家 レシタティーボ

夜明けになって、すべての祭司長、民の長老たちは、イエスの処分を討議し、イエスを殺そうと決めた。こうしてイエスを縛り、引いていき、総督ポンティオ・ピラトに引き渡した。その時、イエスを裏切ったユダは、イエスに死の判決が下されたのを見て後悔し、30枚の銀貨を返して言った。

ユダ 間違いでした。私は罪なき人の血を売り渡して、悪事をおこなってしまった。

福音史家 彼らは言う。

二重合唱 我々に何の関わりがあるか？ 自分で始末しろ！

レシタティーボ

福音史家 ユダはその銀貨を神殿に投げ込んで去って、自分で首をくった。祭司長たちはこの銀貨を取り上げて言った。

大祭司2人 これは血の代償だから、神殿の献金に入れるのは良くない。

29:18~32:30 3分

アリア(バス II)

私に返せ 我がイエスを！ 私に返せ 我がイエスを！ 見よ、人殺しの報酬として受けた金を。迷い出た放蕩息子は、あなたたちの足元に投げ出したではないか！ 見よ、人殺しの報酬として受けた金を。迷い出た放蕩息子は、あなたたちの足元に投げ出したではないか！ 見よ、人殺しの報酬として受けた金を。迷い出た放蕩息子は、あなたたちの足元に投げ出したではないか！ 私に返せ、私がいエスを。  
私に返せ、私がいエスを。

## 第 52 曲～第 58 曲「ピラトの尋問」

いよいよ総督による尋問が始まる。だがニ長調のコラール(＜受難コラール＞の旋律による)に歌われている通り、イエスは行くべき道を神に委ねて、口を閉じたままである。

続くピラトと群衆のやりとりでは、群衆の合唱が主導権を握る。それは減7の和音上の絶叫「バラバを！」に起こり、次いで「十字架につけろ！」の威嚇的なフガートになる。ここで合唱は、＜贖罪コラール＞をロ短調で聞かせる(＜それにしても驚くべき、この刑罰＞、第55曲)。

ピラトが「彼はどんな悪事をしたのか」と呟くと、ソプラノが進み出、イエスのなした「善きこと」に思いを馳せる。それは続くイ短調のアリアで「救い主の愛」の認識にたどりつくが、フルート独奏を持つこのアリア＜愛によって わたしの救い主は死のうとされている＞は、低音部を欠いた編成で書かれており、その清らかで慈しみに富んだ音色によって、前後の残虐な光景から際立った対照をなして浮かび浮っている。「これこそバッハのもっとも高い作曲の一つであり、純粋な愛の力から流れ出たその旋律は、聖杯の領域からの天使の使いのような印象を与える」(ブルーノ・ワルター)。

32:30～34:55 2分

レシタティーボ

福音史家 こうして協議して、その銀貨で「陶器師の畑」を買い、旅人ための墓地にした。これによって、その畑は、今日まで血の畑と呼ばれている。こうして預言者エレミヤによって言われたことが成就した。すなわち「主が私にお告げになったように、彼らは、イスラエルの子らから買った売り物(＝イエス)の代金である30枚の銀貨を取り、陶器師の畑の代価として与えた。」それは主が私に命じた通りである。さて、イエスは総督の前に立ち、総督は彼に尋ねて言った。

ピラト 汝はユダヤの王なのか？

福音史家 イエスはそこで言った。

イエス あなたの言うとおりです。

福音史家 そして大祭司や長老たちからの告発があったが、彼は何も答えなかった。これを見てピラトはイエスに言った。

ピラト 彼らがあのように激しくお前を告発しているのが、聞こえないのか？

福音史家 しかし、総督がとても不思議に思うほどに、イエスは一言も答えなかった。

35:02～36:25 2分

コーラル

あなたの行くべき道と、あなたの心を患いを、神に委ねなさい。天を統治される大いなる者の、常に変わらない守り御手に。雲に大気に、風に、道を備えて巡り行かせる者は、必ず道を開いて、あなたの足を確かに導いてくださるだろう。

36:25～40:07 4分

**福音史家** さて、過越祭の際に、総督は民衆の望む囚人1人を赦免する慣例になっていた。時にバラバという名だたる囚人がピラトのもとにいた。そこで人々の集まったとき、ピラトは彼らに尋ねた。

**ピラト** お前らは私が誰を赦免するのを望むのか？ バラバか？それともキリストと呼ばれるイエスか？

**福音史家** というのは、彼らは妬みからイエスを引き渡したのだと、ピラトはよく知っていたからである。また、彼が裁判の席についていたとき、彼の妻が人を遣わせて言わせた。

**ピラトの妻** その正しい人に関係しないで下さい。私は昨夜夢の中で、この人のことで散々苦しみました。

**福音史家** しかし、大祭司や長老たちは、バラバの赦免を願い、イエスを殺してもらうよう民衆を説き伏せた。さて、総督は彼らに答えて言った。

**ピラト** 2人のうち、どちらを釈放して欲しいのか？

**福音史家** 彼らは言った。

**合唱 I, II** バラバを！(大合唱)

**福音史家** ピラトは言った。

**ピラト** それではキリストと呼ばれるイエスはどうしたら良いのか？

**福音史家** 彼ら一斉に言った。

**合唱 I, II** 十字架につけろ！(大衆の声がどんどん増える)

コーラル

何と驚くべき この刑罰！ 善良な羊飼ひ、羊らに代わって 苦しみを受け、義人である主が、下僕らの負債を償われるとは。

40:07～41:50 2分

レシタティーボ

**福音史家** 総督は言った。

**ピラト** あの男は、一体どんな悪いことをしたのか？

レシタティーボ(ソプラノ I)

主イエスは私たちに、善いことばかりされた。盲人に見る力を与え、足の不自由な人を歩かせ、私たちに父のみ言葉を語り、悪魔を追い出した。悲しみに崩れている人を励まし、罪人を迎え入れ友となった。私のイエスはそれらの善き事の他には何もなさいませんでした。

41:50～47:20 6分

アリア

愛ゆえに 愛ゆえに 私の救い主は死のうとされます。愛ゆえに 愛ゆえに 私の救い主は死のうとされているのです。 罪を知らない清い方でおられますのに。 永遠の滅びと審判の刑罰から私の魂を守るための身代わりに。 愛ゆえに 愛ゆえに 私の救い主は死のうとされます。 罪を知らない清い方でおられますのに。

## 第 59 曲～第 63 曲「判決と鞭打ち、嘲弄」

裁きの場面に帰り、再び「十字架につけろ！」の叫びが押し寄せる。その調性はイ短調から口短調に変化し、群衆の興奮の高まりを示している。さらに、続く「その血は、我らと我々の子孫に帰すべし」の合唱。群衆の激昂ぶりを見たピラトは説得を諦め、イエスを鞭打たせて、十字架につけるために引き続き渡す。ここで歌われるアルトのレシタティーヴォは、痛ましい鞭打ちに思いを馳せるもの。伴奏の弦楽器には、一貫して鞭の響きが模写されている。その音型がゆったりした 3 拍子に変化すると、音楽はト短調のARIA<わたしの頬の涙>に入る(第 61 曲)。「涙で足りなければ心臓を捧げよう、私は心臓で慈しみの血潮を受け取るのだ」と。

兵卒のイエスへの嘲弄が「安かれ、ユダヤ人の王よ」で頂点に達したところへ、**周知の<受難コーラル>**が、大きく響き出す(第 63 曲)。それはひと際高い音域に置かれ、基本的に短調の和声づけを受けていて(二短調→へ長調)、受難の出来事がもっとも緊迫した段階にさしかかったことを示している。

47:27～49:16 2分

レシタティーヴォ

福音史家 すると彼らは、ますます激しく叫んで言った。

合唱 I, II 十字架につけろ！ (大衆の声がどんどん増える)

福音史家 ピラトは何を言っても効果がなく、かえって大暴動になりそうなを見て、水を取り、群衆の前で手を洗って言った。

ピラト この義人の血について私は責任を持たない。お前らが責任を取れ。

福音史家 すると、全群衆が答えて言った。

合唱 I, II その血の責任は、我らと 我々の子孫の上に！

福音史家 そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打たせ、十字架につけるために身柄を引き渡した。

49:16～50:17 1分

レシタティーボ(アルト II)

神よ、憐れんで下さい！ここに救い主は柱に繋がれて立っておられる。ああ鞭打ち、殴打、痛ましい傷！執行人よ、やめよ！そんな悲惨な御姿を前にしてあなたたちの心は傷まないのですか？そうよ、あなたたちにも心はあっても、それは拷問の柱のように、いやそれよりもっと無情冷酷なのだ。彼を憐れんでください！やめて下さい！

50:17~58:17 8分

アリア(アルト II)

たとえ私の頬の涙があなたたちの心を動かさないというのなら、おお、私の心を取るが良い！私の頬の涙があなたたちの心を動かさないというのなら、おお、私の心を取るが良い！でも主の御傷が、慈しみの血潮を流す時、私の心捧げの器ともなしてください。私の頬の涙があなたたちの心を動かさないというのなら、おお、私の心を取るが良い！

58:17~59:21 1分

レシタティーボ

福音史家 それから総督の兵士たちはイエスを総督官邸に連れて行き、全部隊を彼の周りに集めた。そして服を脱がせて紫の上着を羽織らせ、茨の冠を編んで頭にかぶせた。右手には葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、彼をあざけて言った。

二重合唱 見事な御姿で ようこそ ユダヤの王よ！(痛ましさを合唱が歌う)

福音史家 またイエスに唾を吐きかけ、葦の棒を取って、それで頭を叩いた。

59:21~1:02:07 3分

コラール

おお、血と傷にまみれた御頭は、なんと痛みと辱めに歪んでいることか。嘲りのため茨の冠を押し付けられた御頭は。これまで この上ない誉れと誇りで 美しく飾られていたのに。格別の誉れをいただいていた御首は、今は嘲りの極みを受けている。この御身こそ、私には尊く慕わしい！

気高い御顔よ、かつてはあなたの御前に、世の権威も恐れおののいていたものを。今、御身は唾が吐きかけられ、なんと色褪せていることか！かつて、あなたの御目は比べようのない光で輝く光の源なのに。誰がこんなにも無惨な姿に変えてしまったのか？

## 第 64 曲～第 66 曲「十字架への道行き」

イエスはゴルゴタの丘へと引き立てられ、十字架はクレネ人シモンの肩に背負わされた。第 65 曲のレシタティーヴォと第 66 曲のアリア(バス)は、その十字架の道行きに対する省察である。まずフルートに聞こえる音型はよろめく足りの具象化と解釈されるが、それは何と内面的で甘美な趣を持つものとなっていることであろう。ヴィオラ・ダ・ガンバの重々しい演奏を従えた二短調のアリ

ア<きたれ、甘き十字架>においても、苦難の十字架の道行きのリズムからは、静かな憧れの感情が匂い出ている。第 58 曲でソプラノが歌った「神の愛」に、今バスが「人の憧れ」をもって応答する。

1:02:07~1:03:07 1分

レシタティーボ

**福音史家** このようにイエスを嘲弄したあと、上着を脱がせて元の服を着せ、十字架にかけるために引いて行った。町を出たところで、クレネ出身のシモンという男を見つけたので、兵卒たちはイエスの十字架をこの男に無理やり担がせた。

1:03:07~1:03:54 1分

レシタティーボ(バス I)

確かに我々のうちなる血肉は、十字架を強いられる方が良い。苦い十字架を負わされるほど、私たちの魂の益が増すのだから。

1:03:54~1:10:51

アリア(バス I)

来たれ、甘き十字架よ。私はあえて願う、私のイエスよ、十字架を私に与えてください。  
もし、苦難が重く耐えられない時がきたならば、あなたが力となって共に負ってくださいますように。  
来たれ、甘き十字架よ。私はあえて願う、私のイエスよ、十字架を私に与えてください。  
もし、苦難が重く耐えられない時がきたならば、あなたが力となって共に負ってくださいますように。  
来たれ、甘き十字架よ。私のイエスよ、それを常に負わせてください。

## 第 67 曲～第 70 曲「磔刑」

イエスは遂に十字架に架けられた。イエスに浴びせられる嘲りの合唱は、2つのグループの掛け合いによって勝ち誇るように高潮し「わたしは神の子なり」の異様なユニゾン楽節となって終わる。

このホ短調で「中核部」は閉じられ、以後、曲はフラット系の調性による新しい世界に入っていく。

チェロのピッチカートが吊鐘を響かせる中で、アルトが「ああ、ゴルゴタよ」と叫ぶ。

しかしその音楽には、すでに確信が宿されている。変ホ長調のアリア<見よ、イエスはわたしたちを抱かれる>(第 70 曲)を歌うアルトの眼には、**十字架に打ちつけられたイエスの腕が、今にもわ**

たしたちを抱こうとするように映ずる。喜びさえにじみ出る合唱との応答。

1:10:51~1:13:05 2分

レシタティーボ

**福音史家** ゴルゴタ、すなわち「されこうべの場」に着くと、彼らは苦みを混ぜた酔っぱくった葡萄酒をイエスに飲ませようとした。イエスはこれをなめたが、飲もうとはしなかった。兵卒たちはイエスを十字架につけて、くじを引いて彼の服を分け合った。これは預言者によって「彼らは私の服を仲間うちで分け合い、私の上着をくじ引きにした。」と言われたことが成就するためである。そして彼らはそこに座って、イエスの見張りをした。

イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王、イエスである」と、死刑の罪状書きが掲げられていた。

同時に、イエスと共に、2人の強殺者が、1人はイエスの右側、もう1人は左側に十字架につけられた。

そこを通りかかった者たちは、イエスをののしり、頭を振りながら言った。

**二重合唱** 倒れた神殿を三日で建て直す者よ、自分自身を救ってみろ！ 自分が神の子なら十字架から降りてみる！

1:14:05~1:14:24 1分半

**福音史家** 一緒に十字架につけられていた殺人犯、祭司長らも律法学者、長老も、同じようにイエスをののした。

**合唱** こいつは他人は救っても、自分は救えない。イスラエルの王ならば、いますぐ十字架より降りてみる。そうすれば信じてやろう。彼は神を頼りにしている。それなら御心にかなう男を救い出すはず。今すぐ救い出してしまえ。なにしろ「私は神の子だ」と威張っているのだから。

レシタティーボ

**福音史家** 一緒に十字架につけられていた殺人犯まで、同じようにイエスをののした。

1:14:24~1:16:00

レシタティーボ(アルト I)

ああゴルゴタよ！ 呪うべきゴルゴタよ！ 栄光の主は恥辱にまみれて ここで滅びゆく。

世の祝福と救いにて、おわします君は、自ら呪いを負って十字架にさらされる。

天と地の創造者から、大地と空気を剥奪されようとしている。罪なき方が咎めを負わされて死んでいかななくてはならない。ここに極める痛みが、私の魂を突きさし うずかせる。ああゴルゴタよ！ 呪うべきゴルゴタよ！

アリア(アルト I と合唱 II)

**アルト** 見よ！ 見よ！ イエスは私たちを抱き止めようと御手を広げていらっしゃる。来たれ！

**合唱 II** どこへ？

**アルト** イエスの御腕に、救いを求め、憐れみを受けよ、求めよ！

**合唱 II** どこに？

**アルト** イエスの御腕に。生きよ、死せよ、憩えよ、ここに、生きよ、死せよ、憩えよ、ここに、見捨てられ

た雛たちよ。留まりなさい！

合唱Ⅱ どこに？

アルト イエスの御腕に！

## 第71曲～第73曲「イエスの死」

やがて全地を夜のような闇が襲った。アダージョで現れるイエスの最後の言葉「エリ・エリ・サバクタニ」は、枠をなすホ短調に鋭く対立する変口短調に置かれ、しかもそこからは弦楽器による「光背」が姿を消している。イエスが息を引きとると、<受難コラール>が4回歌われる。しかしそれは古風なフリギア調で和声付けされて、沈痛な表情を持つものに变化している。この後、天地の不思議な鳴動が通奏低音のトレモロを伴って劇的に語られ、これには百卒長たちの「本当にこの人は神の子だった」という告白が、簡潔で感動的な合唱句として続く。

1:20:00～1:22:57 2分

レシタティーボ

福音史家 昼12時から地上が全部暗闇になって、午後3時に及んだ。そして午後3時頃、イエスは大声で叫んで言われた。

イエス エリ、エリ、レマ・サバクニ。(御父への叫びの祈り)

福音史家 これは、「我が神、我が神、なぜ私を見捨てたのですか？」という意味である。

そこに立っていた何人かが、これを聞いて言った。

合唱Ⅰ あれはエリヤを呼んでいる。

福音史家 そこで中の1人がすぐに走ってゆき、海綿を取って酸い葡萄酒を含ませ、葦の棒につけてイエスに飲ませた。だが、他の者たちは言った。

合唱Ⅱ 待て！ エリヤが来て彼を助けるかどうか見てやろう。

福音史家 しかしイエスはもう一度大声で叫んで、息絶えられた。

1:22:57～1:25:00 2分

コラール

いつの日か私が世を去り逝くとき、私から離れ去らないで下さい。

私が死に直面するとき、あなたは現れて私の盾になってください！

恐怖と不安の闇が、私の心を覆う時、私を恐ろしき淵より救い出してください！ あなたが先駆けて味わった不安と苦痛の力によって！

1:25:00～1:27:19 2分

レシタティーボ

**福音史家** そのとき見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。また、大地は震え、岩々は裂け、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒の死体が起き上がった。イエスの復活ののち、墓から出て聖なる都に入って、多くの人の前に現れた。百人隊長や、彼とともにイエスの見張りをしていた人々は、地震とこれらの出来事を見て、とても恐れ、そして言った。

**合唱 I, II** 本当に、この人は神の子だった。(静かな歌い出しから…優しいメロディで)

## 第 74 曲～第 78 曲「埋葬」

天変地異が鎮まった後、《マタイ受難曲》には、にわかには清浄の気が漂い始める。バスの語るレチタティーヴォ<夕方、陽が涼しくなったところに>では、ヴァイオリンに木の葉のそよぎが聞かれ、すがすがしい夕べの一刻の情感が、あますところなく表現されている。その気分は変口長調の Aria<わが心よ、おのれをきよめよ>にも流れこみ、曲はゆったりしたシチリアーノ風の動きを見せて、聴く者の心を洗う。

イエスはこうして埋葬され、墓には封印が施された。4 人の独唱者と合唱が主に心からの別れを告げ、楽曲に子守歌を思わせる安らかさが立ちこめたところで、《マタイ受難曲》は、おおらかな終曲 <わたしたちは涙を流しながらひざまずく>へと入っていく。この終曲は自由な三部形式で書かれ、信徒たちが墓前にひざまずく姿を示すかのような音型を、低音に繰り返す。音楽は大河のように滔々(とうとう)として流れ、筆舌に尽くせぬ霊的な力を放射して、聴く者をあたたかな感動へと燃えさせたてくれる。

1:27:20～1:31:07 4分

**福音史家** また、そこにはイエスを遠くから見ていた沢山の女性がいた。ガリラヤからイエスに従って来て、仕えた女たちで、その中にはマグダラのマリア、ヤコブとヨゼフの母マリア、ゼベダイの子らの母などがいた。日が暮れて、アリマタヤ出身のヨセフという金持ちが来た。この人も、イエスを師と仰いでいた。彼はピラトのところに行って、イエスの遺体の下げ渡しを願い出た。そこでピラトは、遺体を彼に渡すよう命じた。

レシタティーボ(バス I)

夕べになって涼しくなった頃(創世記 3:8)、アダムの罪が明らかになった。夕べに救い主は人の墮落に打ち勝った。夕べに鳩は帰ってきて(創世記 8:11)、口にオリーブの葉をくわえてきた。おおうわしの

時！ おお夕べの時よ！

(イエスが十字架を全うしたおかげで) 平和の契りが 今 神と結ばれた。

それはイエスが、自分の十字架を全うしたからこそ。その御体は今や安息に入る。

ああ、私の魂よ、願うがいい。行って、死せるイエスを もらい受けなさい。

おお、救いの慰め、まことに尊い形見よ！

1:31:07~1:38:00 7分

アリア(バス I) (この美しいメロディはこのような内容だったのか！という喜びの発見)

我が心よ、自分を清めよ。我が心よ、自分を清めよ。私は自分から墓になってイエスを迎えよう。我が心よ、自分を清めよ。我が心よ、私は自分から墓になってイエスを迎えよう。自分を清めよ。本当にイエスがいまこそ私のうちに、永遠に、安らかな憩いの床を得ますように。世俗の雑念よ、出て行きなさい！ イエスをお迎えするのだから。我が心よ、自分を清めよ。我が心よ、自分を清めよ。私は自分から墓になってイエスを迎えよう。我が心よ、自分を清めよ。我が心よ、自分を清めよ。私は自分から墓になってイエスを迎えよう。

1:38:00~1:40:47 2分半

レシタティーボ

**福音史家** ヨセフは遺体を受け取って、きれいな亜麻布で巻いた。そして岩に掘らせてあった自分自身の新しい墓に納め、墓の入り口に大きな石を転がして立ち去った。そこにはマグダラのマリアともう一人のマリアが残って墓の前に座っていた。翌日、すなわち準備日の翌日、祭司長らとファリサイ派らが全員でピラトの所に集まってきて、言った。

**合唱** 閣下、思い出したのですが、あの人々を惑わす者がまだ生きていたとき、「私は3日目に復活する」と言っていました。

ですから弟子たちが来て遺体を盗み、「イエスが死人の中からよみがえった」などと言うことのないよう、3日目まで墓を警備するよう命じて下さい。そんなことになると、今度の嘘は、前のよりもっとひどくなるのが心配です。

**福音史家** ピラトは彼らに言った。

**ピラト** 番兵を貸してやる。行って納得がいくまで警備したらよかろう。

**福音史家** 彼らは行って、番兵を置いて墓を警備し、石に封印をした。

1:40:47~1:44:07 4分

レシタティーボ(バス I、テノール I、

アルト I、ソプラノ I、合唱 II)

**バス** 今や主は憩いの床へ安置された。

**合唱** 私のイエスよ、安らかにお眠りください！

**テノール** 我らの罪によって主に負わせ受けた労苦は終わった。

**合唱** 私のイエスよ、安らかにお眠りください！

**アルト** 救いを宿せる御遺体よ、見て下さい、私はどれだけ悔いの涙を注ぎ、背きが出た私の罪が、御身をこのような惨状に 追いやったことを嘆く様を！

合唱 私のイエスよ、安らかにお眠りください！

ソプラノ 生きる限り 御身の受難にいつまでも感謝を捧げましょう。御身は私の魂の救いを これほど重んじてくださったのですから。

合唱 私のイエスよ、安らかにお眠りください！

1:44:07~1:50:17 6分

二重合唱(終曲)

私たちは涙を流しながらひざまずき御墓の中のあなたに願います。憩いでください、安らかに安らかな憩いを！ 私たちは涙を流しながらひざまずき御墓の中のあなたに願います。安らいでください、苦しみ抜かれた御肢体よ！ 憩いでください、安らかに憩ってください。心からの憩いを！

あなたの御身を納めた墓と墓石こそ、悩める良心のうれしき憩いの枕。  
また、魂の安らぐ隠れ家となるでしょう。憩いでください、安らかに安らかな憩いを！  
こうしてこの目は、こよなく満ち足りた まどろみを迎えられよ。  
私たちは涙を流しながらひざまずき御墓の中のあなたに願います。